

英語科学習指導案

単元名「Unit 6 Beyond Borders」〔学指要領：領(4)ウ、知工(ウ) a(b)k、思ウ〕

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇室
 〇〇立〇〇中学校 3年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇
 ALT 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法の用法を理解し、国際協力に対する自分の思いや国際協力として日常生活でできそうなことを発表する活動において、仮定法を正しく用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件を表す if を用いた英文の意味や使用場面を理解している生徒は多い。また、関係代名詞を用いた修飾節について、文の意味は概ね理解しているが、文構造について混同する生徒もいる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> □□中の生徒が世界のことに興味を持ち、考えることができるように、世界の現状や国際協力に関して聞いたり、読んだりしたことについての自分の思いや考え等を、既習表現を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物に興味がある ALT に、絶滅危惧種の動物について調べ、感じたことや考えたことを伝える活動では、相手の知りたいことに応じた内容を伝えていた。また、教科書の本文や例文を参考にしながら話す生徒が多い。既習表現を適切に用いて思いを伝えている生徒は少ない。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> □□中の生徒が世界のことに興味を持ち、考えることができるように、世界の現状や国際協力に関して聞いたり、読んだりしたことについての自分の思いや考え等を、既習表現を適切に用いて話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの発表活動では、調べた事実、自分の思いや考えをクラスの友達や ALT に分かってもらえるように、ALT や JTE に表現を質問したり、友達が用いた表現を参考にしたりして伝えようとしていた生徒が多く見られた。

※目標については、1文で表記することも考えられる。

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 〇仮定法(I wish..., If+主語+動詞の過去形...)の特徴やきまりを理解している。 〇仮定法(I wish..., If+主語+動詞の過去形...)を用いて、現実とは異なる願望や仮定を英文で伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 〇□□中の生徒が世界のことに興味を持ち、考えることができるように、世界の現状や国際協力について聞いたり、読んだりして知ったことや調べた情報、自分の思いや考え、日常生活で自分ができそうなこと等を、簡単な語句や英文を用いて話している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 〇□□中の生徒が世界のことに興味を持ち、考えることができるように、世界の現状や国際協力について聞いたり、読んだりして知ったことや調べた情報、自分の思いや考え、日常生活で自分ができそうなこと等を、簡単な語句や英文を用いて話そうとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 ※別紙参照

4 言語活動の価値

□□中の生徒に向けて、世界の現状や国際協力について感じたことや考えたこと、自分たちが日常生活でできそうなこと等を伝える言語活動は、「様々な国の人たちと暮らす△△市民の一員として、世界のことに興味を持ち、自分事として活動の意味を十分に理解して行動してほしい」といった思いを伝える必要感を高め、社会的な話題に対する生徒自身の意見や感想を、事実や経験等とともに相手に話して伝える力の育成につながる。また、学校生活において、生徒は募金活動やボランティア活動に参加しているが、それらの活動の意義や背景について十分に理解して取り組んでいる生徒は少ない。そのような生徒にとって、本言語活動は、自分たちの日常生活と世界とのつながりに気付いたり、世界の様々な状況に置かれた子供たちの現状や国際協力の在り方について知ったりする機会となる。それにより生徒は、社会的な話題を自分事として捉え、様々な思いや願い、考えを持つことができるとともに、それらを仮定法や、これまでに学んだ既習の表現を適切に用いて話す力を高めることができる。

II 本時の学習（1／9）

1 ねらい 世界の現状や国際協力について知り、感じたことや考えたこと、自分ができそうなこと等を、既習表現を用いて友達と伝え合う活動を通して、□□中の生徒に伝えたい内容や伝えるための英語表現等についての見通しを持つことができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 Warm up（5分） 2 JTE と ALT のやり取りを聞いて、単元の課題をつかむ。（10分）</p> <p><単元の課題> □□中の生徒が世界のことに興味を持ち、考えることができるよう、世界の現状や自分たちが日常生活でできそうなことを伝えよう。</p> <p><めあて> 世界の現状について自分が思ったことや国際協力として自分ができそうなことを友達に伝えよう。 S:フェアトレードの商品を買うと人の役に立つのか。他にもあるのかな。どのような人たちのためになるのかな。</p>	<p>○本時の活動（試しの活動）に生かすことができるように、教科書に出てくる写真の状況や本文の内容について既習表現を用いて相手に伝える活動を設定する。</p> <p>○伝える目的や場面を明確に理解することができるように、JTE の実際の体験談やインターネットの情報を活用したり、他教科等で学習したことを取り上げたりした JTE と ALT のやり取りを提示する。</p> <p>○試しの活動で伝える内容の参考にできるように、JTE と ALT のやり取りの内容や、世界の現状、国際協力について知っていることを問いかける。</p>
<p>3 世界の様々な現状や国際協力について、自分にできそうなことを考える。（10分） S:子供たちが農園で働いているのか。フェアトレードの商品はどのようなものがあるのだろうか。</p>	<p>○伝えたい思いを持つことができるように、他教科等の学習で用いたワークシートや、国際協力についての情報にアクセスできる Web ページの URL を学習用端末に用意しておく。</p>
<p>4 世界の現状と国際協力について思ったことや考えたこと、自分ができそうなことをペアで伝え合う。（試しの活動）（20分） S:自分が伝えたいことが友達に伝わるか不安だな。</p> <p>S:I'm interested in fair trade. Do you know it? We can help people in developing countries by fair trade. Young children work in farms.</p> <p>S:国の現状について詳しく伝えた方がいいかな。友達には「気持ち」や「できそうなこと」を伝えていたな。 S:「～することは大切だ」は、以前に学習した It's～to...を使うと伝えられるのだな。</p> <p>S:I'm interested in fair trade. Do you know it? We can help people in developing country by fair trade. Many young children work in farms. They work for long time, so they cannot go to school. I'm very surprised. We can help them by buying fair trade chocolates. It's important for us to help each other.</p> <p>S:「多くの人がフェアトレードの商品を買ってくれたら良いのに」と言ったら相手に思いが伝わるかな。</p>	<p>○伝える内容の幅を広げられるように、異なる内容を伝えている複数の生徒を紹介する。</p> <p>○相手に伝わりやすい語句や英文を用いることができるように、伝えたいことを既習の英語で表現できる日本語に言い換えるよう促す。</p> <p>○既習表現に気付くことができるように、生徒の発話から語句や英文を紹介し、それらを板書する。</p> <p>○正確な英文で伝えることができるように、生徒の発話状況に応じて、口頭練習の機会を設ける。</p> <p>◆評価項目（思・態）指導に生かす評価 友達と伝え合う場面において、「世界の現状や国際協力について感じたことや考えたこと、自分ができそうなこと等を、既習表現を用いて話しているか（話そうとしているか）」を評価する。</p>
<p>5 言語面・内容面から学習の振り返りをする。（5分）</p>	<p>○今後の学習に見通しを持って意欲的に取り組めるように、数名の生徒の振り返りを紹介するとともに、試しの活動への取組を称賛する。</p>
<p><振り返り> S:フェアトレードについて初めて知ったことや驚いたことを友達に伝えられました。働いているから学校に行けない子供たちがどのくらいいるのか、その子たちのためにできることはあるのかについてもっと知りたいと思いました。「フェアトレードの商品がたくさんあったら、助けられる」と言いたかったけれど、英語の表現が分からなくて言えなかったので、言えるようになりたいです。</p>	

(別紙)

3 指導及び評価、ICT 活用の計画 (全9時間 : 本時第1時)

※評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・ JTE と ALT のやり取りを聞いて、単元の課題を把握し、世界の現状や国際協力について知ったことや考えたこと、自分ができること等を伝え合う (試しの活動)。(a) (b) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">単元の課題 □□中の生徒が世界のことに関心を持ち、考えることができるように、世界の現状や自分たちが日常生活でできそうなことを伝えよう。</div>	ねらいに 即して指 導に生か す評価を 行う。		
2	・ 仮定法(I wish...)の用法を捉え、自分の願望について伝え合う。			
3	・ 仮定法(If+主語+動詞の過去形...)の用法を捉え、様々な状況においてできることやしたいこと等を伝え合う。			
4	・ 教科書本文 (Scene 1、2) を読んで、理解したことや考えたことを伝え合う。			
5	・ 教科書本文 (Read and Think 1 前半) の概要や要点を捉え、国際協力の大切さについて考え、伝え合う。			
6	・ 教科書本文 (Read and Think 1 後半) の概要や要点を捉え、世界の現状や自分の考えを伝え合う。			
7	・ 世界の現状や国際協力についての自分の考えを整理し、伝える。	●		
8	・ 友達やALTに、世界の現状や国際協力、自分ができること等を発表する。	●	●	●
9	・ 他のクラスの発表動画を見て感想を書いたり、動画を見た他のクラスの友達や後輩からの感想を読んだりして、単元の学習を振り返る。			

* 活用するコンテンツ等 : (a) キッズ外務省 https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/q_a/en/jyo.html

(b) JICA <https://www.jica.go.jp/>